

7. 中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業、民間中心市街地商業活性化事業、その他の経済活力の向上のための事業及び措置に関する事項

<歴史・文化を活かした、商業・観光等の活性化のための事業>

[1] 経済活力の向上の必要性

(1) 現状分析

本市の中心市街地では、小売店の大型化・郊外化により、小売業の衰退、中心市街地の空洞化が広がりつつある。中心市街地における小売業の店舗数は、2002（平成14）年から2014（平成26）年にかけて6割以上減少しており、経済活力の拠点としての中心市街地の機能低下が見受けられる。また、市民・高校生アンケート結果では、今後まちに期待する機能として買い物、飲食に関する機能が上位に挙げられており、現状では十分にニーズを満たしていないことが伺える。

観光面においては、伊賀上野城や伊賀流忍者博物館等、国内外から多くの観光客が訪れる施設が立地しているものの、上野公園を中心とした一部のエリアを訪れるのみで、城下町エリア全体の周遊にまではつながっていない。

このような状況の中、第2期計画では、旧上野市庁舎改修整備事業と忍者体験施設整備事業を核とした「にぎわい忍者回廊整備事業」が官民連携で動き出した。本事業は、日本の20世紀遺産20選に選ばれた「伊賀上野城下町の文化的景観」を繋げる導線を回廊に見立て、上野公園周辺エリアと城下町エリアとの回遊性向上を図るものである。

本事業を呼び水として、空き店舗を活用した新規出店の増加や、「伊賀上野まち百貨店」等の中心市街地全体を回遊するようなイベントのさらなる開催が期待されているところである。

(2) 経済活力向上の必要性

「にぎわい忍者回廊整備事業」による観光誘客施設の整備をきっかけとして、官民が連携して来訪者がまちなかへ回遊する仕組みを構築するなど、観光まちづくりの取組を推進していく必要がある。具体的には、空き店舗を活用した新規出店者への支援や、地域の商店街等が実施する地域資源を活用したイベント開催等への支援により、郊外の大規模小売店舗では味わえない、中心市街地ならではの店舗の魅力を認知してもらうことで、交流人口の増加を図っていく。あわせて、出店希望者を対象とした勉強会やチャレンジショップ等の創業支援も引き続き行っていく。

このほか、中心市街地に残る歴史的資源を活用した城下町ホテルや町家ホテル、文化財施設の運営などにも引き続き取り組むとともに、にぎわい創出のための社会実験等にも積極的に取り組んでいく。

さらに、今後は、周辺地域のノウハウを中心市街地に取り入れる交流や、中心市街地活性化の効果を周辺地域に波及させ、地域経済の好循環・相乗効果をさらに生み出す取組が必要である。伊賀米、伊賀牛など伊賀の風土と暮らしが育んだ物産や伊賀ブランド“IGAMONO”などを、周辺地域との連携により有効活用することも、伊賀市全体の発展に向けて重要である。

(3) フォローアップの考え方

各年度に進捗状況調査を行い、本市も参加する伊賀市中心市街地活性化協議会でその報告及び調整などを行うとともに、必要に応じて事業の促進などの改善措置を講じる。

[2] 具体的事業の内容

(1) 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

(2) ① 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

【事業名】 まちなか空き家・空き店舗活用支援事業

【事業実施時期】	2025（令和7）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	中心市街地の空き家・空き店舗の所有者が、空き家・空き店舗を活用（貸出）するための改修費の支援を行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 中心市街地の歩行者等通行量 空き店舗等を活用した新規出店数		
【活性化に資する理由】	・空き家・空き店舗の利活用を推進することにより、まちなかの良好な生活環境が保全されるため。 ・空き家・空き店舗の利活用を推進することにより、まちなかへの新規出店数の増加に寄与するため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和7）年4月～2030（令和12）年3月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

【事業名】旧上野市庁舎運営活用事業

【事業実施時期】	2025（令和7）年度～		
【実施主体】	株式会社伊賀市にぎわいパートナーズ、伊賀市		
【事業内容】	上野公園から城下町エリアを結ぶ導線を「にぎわい忍者回廊」と位置付け、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI 法）」に基づき、官民が一体で地域資源を面的にとらえたにぎわいづくりを実施する。 にぎわいづくりの拠点として市指定有形文化財「旧上野市庁舎」をリノベーションして整備した、観光案内所、カフェ、宿泊施設などから構成される官民複合施設の運営を行うとともに、「にぎわい忍者回廊」プロジェクト全体のマネジメントを行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	まちのにぎわいの核となる施設の運営及びエリアマネジメントを実施することで、中心市街地のにぎわいの創出及び回遊性の向上につながるため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和7）年4月～2030（令和12）年3月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

【事業名】忍者体験施設運営活用事業

【事業実施時期】	2024（令和6）年度～		
【実施主体】	株式会社伊賀市にぎわいパートナーズ、伊賀市		
【事業内容】	上野公園から城下町エリアを結ぶ導線を「にぎわい忍者回廊」と位置付け、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI法）」に基づき、公民が一体で地域資源を面的にとらえたにぎわいづくりを実施する。 市指定有形文化財「成瀬平馬家長屋門」敷地に整備した忍者体験施設を活用し、忍者体験や伊賀の歴史と忍者の世界を体感できるアトラクションの他、伊賀の食材を使ったグルメや土産物ブースを設け、誘客促進を図りながら持続可能な観光まちづくりの取組を実施していく。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
	【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町	
	【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数	
	【活性化に資する理由】	まちのにぎわいの核となる施設の運営及びエリアマネジメントを実施することで、中心市街地のにぎわいの創出及び回遊性の向上につながるため。	
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和7）年4月～2030（令和12）年3月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

7. 歴史・文化を活かした、商業・観光等の活性化のための事業

【事業名】交流型図書館運営活用事業（再掲）

【事業実施時期】	2026（令和８）年度～		
【実施主体】	伊賀市、株式会社伊賀市にぎわいパートナーズ		
【事業内容】	上野公園から城下町エリアを結ぶ導線を「にぎわい忍者回廊」と位置付け、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI 法）」に基づき、官民が一体で地域資源を面的にとらえたにぎわいづくりを実施する。 にぎわいづくりの拠点として市指定有形文化財「旧上野市庁舎」をリノベーションして整備した官民複合施設を構成する交流型図書館において、「学び、創造、憩いの広場」としての機能を発揮するとともに、読書イベントやナイトライブラリなどの事業を実施し、にぎわいづくりにつなげる。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 中心市街地の歩行者等通行量		
【活性化に資する理由】	まちのにぎわいの核となる施設の運営を行いエリアマネジメントに寄与することで、中心市街地のにぎわいの創出及び回遊性の向上につながるため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2026（令和８）年４月～2030（令和 12）年３月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

【事業名】美術博物館整備事業（再掲）

【事業実施時期】	2023（令和5）年度～2029（令和11）年度		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	新しい芭蕉翁記念館と博物館、美術館を兼ね備えた施設の建設に向けた基本調査及び基本計画の策定を進める。 伊賀市は、芭蕉翁の俳文学・伊賀焼・伊賀流忍者・能・伝統行事など、固有の文化を育み、また、絵画、書、文学など様々な分野で多くの偉大な文化人や芸術家も輩出してきた。そのほか、歴史的な遺産や遺跡なども数多く有している。美術博物館は、これらの「伊賀の歴史文化」を適切に保存・管理し、研究し、公開・活用することでその価値を高めながら、未来に引き継いでいくための施設を目指す。また、伊賀市の魅力を国内外に向けて発信することで、地域の魅力を広く知ってもらう。さらには、社会教育施設として、市民が身近なところで歴史文化に触れられ豊かな心を育む機会を提供するとともに、さまざまな交流を通じて相互理解を深める場を目指す。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	中心市街地において、文化芸術や歴史的遺産に触れる機会を充実させることで、芸術文化を活かしたまちの魅力の向上につながるため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和7）年4月～2026（令和8）年3月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

【事業名】文化振興事業（史跡旧崇広堂、赤井家住宅、入交家住宅の運営活用）（再掲）

【事業実施時期】	2025（令和7）年度～		
【実施主体】	公益財団法人伊賀市文化都市協会		
【事業内容】	中心市街地の文化財施設である「史跡旧崇広堂」、「赤井家住宅」、「入交家住宅」を活用し、武家屋敷の佇まいを残す歴史的建造物に触れながら伊賀の技を学ぶことのできる、市民の交流、体験の場としての運営を行う。 中心市街地の文化財施設において、文化芸術に触れる機会を充実させることにより、芸術文化のまちづくりを進める。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	中心市街地の文化財施設において、文化芸術に触れる機会を充実させることで、芸術文化を活かしたまちの魅力の向上につながるため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和7）年4月～2030（令和12）年3月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

【事業名】芭蕉翁関連施設運営活用事業（再掲）

【事業実施時期】	2022（令和４）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	芭蕉翁関連施設である「芭蕉翁記念館」、「史跡芭蕉翁生家」、「蓑虫庵」において通常観覧以外にギャラリートークや俳句教室、句会等のイベントを開催する。また、３館共通券を発行する。その他、中心市街地内で開催されるイベントとの連携を図る。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	中心市街地において、郷土の文化に触れる機会を充実させることで、芸術文化を活かしたまちの魅力の向上につながるとともに、中心市街地内に点在する芭蕉翁関連施設間の連携により各施設間の往来が増加することで、中心市街地の回遊性向上につながるため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和７）年４月～2030（令和１２）年３月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

7. 歴史・文化を活かした、商業・観光等の活性化のための事業

【事業名】駅前広場利活用事業

【事業実施時期】	2016（平成 28）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	駅前広場をにぎわい創出の場として活用し、伊賀ブランド” IGAMONO” の販売やマルシェ等のイベントを定期的に開催する。 また、周辺地域で生産される伊賀米等の農産物や伊賀牛等の畜産物を販売・発信することにより、中心市街地と周辺地域との連携を図る。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	駅前広場を活用したイベントを開催することにより、まちなかへの来街の促進や回遊性の向上につながるとともに、中心市街地と周辺地域との連携が図られるため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和 7）年 4 月～2030（令和 12）年 3 月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

【事業名】中心市街地等商店街活性化事業

【事業実施時期】	2025（令和7）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	中心市街地及びその周辺地域における商店街等が実施する商店街活性化やにぎわい創出に寄与する事業に対して事業費の一部を補助する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	地域商店の魅力向上、商店街が活性化することにより、まちなかの回遊が創出されるほか、波及効果として新規起業者の誘致、移住者・定住者の増加、地価の上昇等の効果が見込まれるため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和7）年4月～2030（令和12）年3月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

【事業名】ユネスコ無形文化遺産 上野天神祭のダンジリ行事開催事業

【事業実施時期】	2016（平成 28）年度～		
【実施主体】	上野文化美術保存会、伊賀市		
【事業内容】	2016（平成 28）年に「山・鉾・屋台行事」の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録された、国指定重要無形民俗文化財「上野天神祭のダンジリ行事」を開催する。また、行事で使用されるだんじりやだんじりの懸装品及び鬼行列で使用される面や衣装などの用具修理を実施するほか、行事の保存継承、情報発信の支援を行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	・郷土の伝統行事を開催し、多くの来街者が中心市街地を訪れることで、まちなかにぎわい創出へとつながるため。 ・郷土の伝統行事を開催することで、次世代へと伊賀の歴史と文化を継承し、将来を担う人材が育成されるため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和 7）年 4 月～2030（令和 12）年 3 月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内外		

【事業名】ライトアップイベント「お城のまわり」開催事業

【事業実施時期】	2016（平成 28）年度～		
【実施主体】	お城の周りライトアップイベント実施委員会		
【事業内容】	上野公園内とその周辺にある歴史的建物等をライトアップし、伊賀のすばらしさを再発見してもらうためのイベントを開催する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	中心市街地の歴史的建造物をライトアップし、伊賀の素晴らしさを市内外からの来街者に体験してもらうことで、リピーターの獲得につなげ、まちなかへの来街者数の増加に寄与するため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和 7）年 4 月～2030（令和 12）年 3 月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

7. 歴史・文化を活かした、商業・観光等の活性化のための事業

【事業名】伊賀上野 NINJA フェスタ開催事業

【事業実施時期】	2003（平成 15）年度～		
【実施主体】	伊賀上野 NINJA フェスタ実行委員会		
【事業内容】	伊賀市の「忍者市宣言」の宣言文に基づき、地域の事業者・団体と連携し、多くの市民が関わることのできる忍びの里伊賀ならではの「まちなか」忍者イベントを開催する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	伊賀市の地域資源である忍者を活用したイベントを開催・発信し、市民や来街者のまちなか回遊を図ることにより、伊賀市の観光振興を図るとともに、市民参加と市街地の活性化に寄与するため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和 7）年 4 月～2030（令和 12）年 3 月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

【事業名】上野城薪能開催事業

【事業実施時期】	1984（昭和 59）年度～		
【実施主体】	上野城薪能実施委員会		
【事業内容】	伊賀市は俳聖松尾芭蕉の生誕地、伊賀流忍者発祥の地として全国的に知られるとともに、能楽を大成させた観阿弥生誕の地とも言われ、まちのシンボルである伊賀上野城の城下町を中心に「文化薫る歴史のまち」として発展してきた。 「上野城薪能」は、毎年中秋の名月の頃に開催する市民ならびに多くのファンが心待ちにしている伊賀市にふさわしい文化性の高いイベントであり、伝統芸能の継承とともに、能楽を大成させた観阿弥の生誕地であることを市内外に強くアピールし、伊賀市の魅力を高めることを目的に実施する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	イベントの開催により多くの来街者が中心市街地を訪れることで、まちなかのにぎわい創出へとつながるため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和 7）年 4 月～2030（令和 12）年 3 月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

【事業名】 忍者の里伊賀上野シティマラソン開催事業

【事業実施時期】	2024（令和6）年度～		
【実施主体】	伊賀上野シティマラソン実行委員会		
【事業内容】	まちの中心部にある伊賀鉄道上野市駅前のハイトピア伊賀周辺からスタートし、城下町のまちなみやのどかな田園地帯を走る「忍者の里伊賀上野シティマラソン」を開催する。全国各地から約2,000人を超えるランナーが参加する大会を開催することで、地域全体のにぎわいを創出する。大会会場では、地域の特産物販売や地域の食材を使った飲食ブースなどにより、参加ランナーをもてなす。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	「マラソン＋プチ旅行」という参加者も多く、大会日の前後は宿泊者数が増加し、中心市街地のにぎわい向上につながるため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和7）年4月～2030（令和12）年3月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内外		

【事業名】 城下町回遊性向上のための方策検討事業（再掲）

【事業実施時期】	2025（令和7）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	上野公園エリアと城下町エリアを繋ぐ南北通路において、複数の導線を比較検討するための可能性調査を行うとともに、調査結果に基づいた南北通路整備を行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量		
【活性化に資する理由】	市内外からの来街者の利便性を向上させることで、にぎわい忍者回廊の整備効果である回遊性の向上により一層寄与するため。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	2025（令和7）年4月～2026（令和8）年3月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

(2) ② 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関する事業

【事業名】伊賀市起業・経営革新促進事業

【事業実施時期】	2019（令和元）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	市内における新たな事業主体の創出及び市内事業者の経営革新を促進し、地域経済の維持・発展を図るため、改修費・付帯設備費及び広告宣伝や商品開発などに要する経費の一部の補助を行う。 ①地域と連携した起業支援事業 市外の個人または法人（申請時点で市内に移住して 3 年を経過していない者を含む）が、市内の団体等と連携して、市内で事業活動を行う場合、空き家・空き店舗の改修費・付帯設備などを補助する。 ② 起業支援事業 市内の個人または法人が、市内で事業活動を行う場合、空き家・空き店舗の改修費・付帯設備などを補助する。 ③経営革新支援事業 市内の個人または法人が、経営革新を目指し、現に事業を行っている店舗・事業所の改修、省エネ化、DX 化などを行う場合補助する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 中心市街地の歩行者等通行量 空き店舗等を活用した新規出店数		
【活性化に資する理由】	新たな事業創出がしやすい環境を整えることで、空き家・空き店舗の利活用が推進され、まちなかの良好な生活環境が保全されるとともに、まちなかへの新規出店数の増加に寄与するため。		
【支援措置名】	デジタル田園都市国家構想交付金		
【支援措置実施時期】	2022（令和4）年度～2026（令和8）年度	【支援主体】	内閣府
【その他特記事項】			

【事業名】IGABITO 育成事業（IGABITO 育成補助金）

【事業実施時期】	2022（令和４）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	高等学校における人材育成の事業を推進し、自らが地域の担い手となる意識を持つ地域創造人材（IGABITO）の育成を図るため、市内県立高等学校内に設置された実行委員会等を支援する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	観光、文化、食などを通じた中心市街地を含む地域での探究活動や地域とのつながりの場づくりにより、将来を担う人材の育成が図られ、活性化の効果が中心市街地から周辺地域へと波及するため。 また、他事業（若者交流拠点応援補助金等）と連動させることにより、若者が中心市街地に集う流れの構築が期待できるため。		
【支援措置名】	デジタル田園都市国家構想交付金		
【支援措置実施時期】	2022（令和４）年度～2026（令和８）年度	【支援主体】	内閣府
【その他特記事項】			

【事業名】IGABITO 育成事業（若者交流拠点応援補助金）

【事業実施時期】	2024（令和6）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	自らが地域の担い手となる意識を持つ地域創造人材（IGABITO）の育成及びシビックプライドの醸成をめざし、市内において若者の交流の場として施設を整備し運営する団体等の活動を支援する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	年間を通じて地域や団体により、若者が交流できる場が中心市街地に設置されることで、世代間交流が活性化し、人が集うにぎわいのあるまちなかの形成に寄与するため。		
【支援措置名】	デジタル田園都市国家構想交付金		
【支援措置実施時期】	2024（令和6）年度～2026（令和8）年度	【支援主体】	内閣府
【その他特記事項】			

7. 歴史・文化を活かした、商業・観光等の活性化のための事業

【事業名】三重大学伊賀連携フィールド運営事業

【事業実施時期】	2016（平成 28）年度～		
【実施主体】	三重大学		
【事業内容】	伊賀地域をフィールドとして、国立大学法人三重大学、上野商工会議所、公益財団法人伊賀市文化都市協会及び伊賀市の四者間で連携協力し、教育・文化・研究の推進を図るとともに、地域振興上の諸課題に適切に対応することにより、三重大学における教育・研究を推進し伊賀地域の充実・発展に貢献する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	伊賀市の発展に資する各種事業を展開することで、活性化の効果が中心市街地から周辺地域へと波及するため。		
【支援措置名】	デジタル田園都市国家構想交付金		
【支援措置実施時期】	2022（令和 4）年度～2026（令和 8）年度	【支援主体】	内閣府
【その他特記事項】			

【事業名】ビッグデータを用いた人流データ分析事業

【事業実施時期】	2024（令和6）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	スマートフォンのGPS 機能を活用した人流測定システムから得られるビッグデータにより、来街者や回遊者の分析を行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 中心市街地の歩行者等通行量		
【活性化に資する理由】	ビッグデータを用いてまちなかの人流を適切に把握することにより、EBPM に基づいた改善策を講じることができるため。		
【支援措置名】	デジタル田園都市国家構想交付金		
【支援措置実施時期】	2024（令和6）年度～2026（令和8）年度	【支援主体】	内閣府
【その他特記事項】			

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

【事業名】 まちなか空き家・空き店舗出店支援事業

【事業実施時期】	2025（令和7）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	中心市街地の空き家・空き店舗に出店する事業者への支援を行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 中心市街地の歩行者等通行量 空き店舗等を活用した新規出店数		
【活性化に資する理由】	・空き家・空き店舗の利活用を推進することにより、まちなかの良好な生活環境が保全されるため。 ・空き家・空き店舗の利活用を推進することにより、まちなかへの新規出店数の増加に寄与するため。		
【支援措置名】	「空き家対策に要する経費等調」の特別交付税措置		
【支援措置実施時期】	2025（令和7）年度～	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】			

【事業名】 まちなか空き家・空き店舗活用支援事業（再掲）

【事業実施時期】	2025（令和7）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	中心市街地の空き家・空き店舗の所有者が、空き家・空き店舗を活用（貸出）するための改修費の支援を行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 中心市街地の歩行者等通行量 空き店舗等を活用した新規出店数		
【活性化に資する理由】	・ 空き家・空き店舗の利活用を推進することにより、まちなかの良好な生活環境が保全されるため。 ・ 空き家・空き店舗の利活用を推進することにより、まちなかへの新規出店数の増加に寄与するため。		
【支援措置名】	「空き家対策に要する経費等調」の特別交付税措置		
【支援措置実施時期】	2025（令和7）年度～	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】			

7. 歴史・文化を活かした、商業・観光等の活性化のための事業

【事業名】美術博物館整備事業（再掲）

【事業実施時期】	2023（令和５）年度～2029（令和 11）年度		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	新しい芭蕉翁記念館と博物館、美術館を兼ね備えた施設の建設に向けた基本調査及び基本計画の策定を進める。 伊賀市は、芭蕉翁の俳文学・伊賀焼・伊賀流忍者・能・伝統行事など、固有の文化を育み、また、絵画、書、文学など様々な分野で多くの偉大な文化人や芸術家も輩出してきた。そのほか、歴史的な遺産や遺跡なども数多く有している。美術博物館は、これらの「伊賀の歴史文化」を適切に保存・管理し、研究し、公開・活用することでその価値を高めながら、未来に引き継いでいくための施設を目指す。また、伊賀市の魅力を国内外に向けて発信することで、地域の魅力を広く知ってもらう。さらには、社会教育施設として、市民が身近なところで歴史文化に触れられ豊かな心を育む機会を提供するとともに、さまざまな交流を通じて相互理解を深める場を目指す。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	中心市街地において、文化芸術や歴史的遺産に触れる機会を充実させることで、芸術文化を活かしたまちの魅力の向上につながるため。		
【支援措置名】	都市構造再編集集中支援事業		
【支援措置実施時期】	2027（令和９）年度～2029（令和 11）年度	【支援主体】	国土交通省
【その他特記事項】			

【事業名】ユネスコ無形文化遺産 上野天神祭のダンジリ行事開催事業（再掲）

【事業実施時期】	2016（平成 28）年度～		
【実施主体】	上野文化美術保存会、伊賀市		
【事業内容】	2016（平成 28）年に「山・鉾・屋台行事」の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録された、国指定重要無形民俗文化財「上野天神祭のダンジリ行事」を開催する。また、行事で使用されるだんじりやだんじりの懸装品及び鬼行列で使用される面や衣装などの用具修理を実施するほか、行事の保存継承、情報発信の支援を行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	・郷土の伝統行事を開催し、多くの来街者が中心市街地を訪れることで、まちなかのにぎわい創出へとつながるため。 ・郷土の伝統行事を開催することで、次世代へと伊賀の歴史と文化を継承し、将来を担う人材が育成されるため。		
【支援措置名】	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金		
【支援措置実施時期】	2017（平成 29）年度～	【支援主体】	文化庁
【その他特記事項】			

【事業名】古民家等再生活活用事業

【事業実施時期】	2019（令和元）年度～		
【実施主体】	株式会社 NOTE 伊賀上野、伊賀市		
【事業内容】	民間ノウハウを活用した空き家対策事業（城下町ホテル事業）を実施する。豊富な歴史文化資源や空き家を活用し、城下町全体に「日本の歴史文化」を体感できる観光関連施設や宿泊施設を点在させることで、城下町内の回遊性及び魅力を高めることを目的とした事業を行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 中心市街地の歩行者等通行量		
【活性化に資する理由】	空き家・空き店舗の利活用を推進することにより、まちなかの良好な生活環境が保全されるとともに、城下町ホテルの整備により、まちなかの回遊性の向上につながるため。		
【支援措置名】	空き家対策総合支援事業		
【支援措置実施時期】	2017（平成 29）年度～2026（令和 8）年度	【支援主体】	国土交通省
【その他特記事項】			

(4) 国の支援がないその他の事業

【事業名】にぎわい忍者回廊エリアマネジメント事業

【事業実施時期】	2024（令和6）年度～		
【実施主体】	株式会社伊賀市にぎわいパートナーズ		
【事業内容】	上野公園から城下町エリアを結ぶ導線として位置付ける「にぎわい忍者回廊」において、エリアマネジメントの観点から、実施主体自らが運営を行う民間サービスや、同エリア内において市や域内事業者が実施する事業などとの周辺環境を活かした連携を図ることにより、観光客や多世代の利用者が楽しみ、心地よく滞在時間を長くできるような事業を行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	まちのにぎわいの核となる施設の運営及びエリアマネジメントを実施することで、中心市街地のにぎわいの創出及び回遊性の向上につながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】岸宏子記念伊賀文学館運営活用事業（再掲）

【事業実施時期】	2023（令和5）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	作家岸宏子から遺贈された旧宅を改修し、令和5年12月に「岸宏子記念伊賀文学館」として開館した。岸宏子や横光利一など伊賀市縁の作家の作品などを展示し、郷土の文化や先賢の功績を知り、文学振興を促進する場として活用を図る。また、和室を文芸活動や小集会の場として貸し出し、駐車場を近接する赤井家住宅と利用連携することにより、集客及び地域振興を図る。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	中心市街地において、郷土の文化に触れる機会を充実させることで、芸術文化を活かしたまちの魅力の向上につながるとともに、関連施設との連携により各施設間の往来が増加することで、中心市街地の回遊性向上につながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】まちなかサイン整備事業（再掲）

【事業実施時期】	2025（令和7）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	にぎわい忍者回廊事業の開業を機に周辺の案内表示を整備し、来街者の利便性の確保及び回遊性の向上を図るため、サイン整備に向けた課題の検討、整備方針や整備計画等の検討を行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量		
【活性化に資する理由】	市内外からの来街者の利便性を向上させることで、にぎわい忍者回廊の整備効果である回遊性の向上により一層寄与するため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】空店舗等情報システム整備及びコンサルタント事業

【事業実施時期】	2020（令和２）年度～		
【実施主体】	伊賀市中心市街地活性化協議会		
【事業内容】	空き店舗率の減少と新規出店数の増加を図り、協働してまちのにぎわいと地域経済の再生を目指すため、以下の事業を行う。 ・ 空き店舗物件意向調査の実施による現状の把握と分析。 ・ 空き店舗を不動産市場に流通させるための物件情報の作成。 ・ 創業・起業希望者への空き店舗情報の提供。 ・ 活用希望者に対するコンシェルジュ機能。 ・ 空き店舗にならないよう、巡回指導及び情報収集。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 空き店舗等を活用した新規出店数		
【活性化に資する理由】	空き家・空き店舗の利活用を推進することにより、まちなかへの新規出店数の増加に寄与するため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

7. 歴史・文化を活かした、商業・観光等の活性化のための事業

【事業名】新まちなか市「伊賀マルシェ」開催事業

【事業実施時期】	2023（令和5）年度～		
【実施主体】	株式会社まちづくり伊賀上野		
【事業内容】	伊賀マルシェを春夏秋冬のイベントとして年4回開催する。 出店者とお客様との交流の場となり、個店の魅力を知ってもらうとともに、新たに事業を考えている方のチャレンジの場となり、伊賀の食文化の発信や魅力度アップを図る。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量		
【活性化に資する理由】	個店の魅力を発信するイベントを季節ごとに開催することにより、まちなかへの来街の促進や回遊性の向上につながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】にぎわい拠点創出事業（再掲）

【事業実施時期】	2023（令和5）年度～		
【実施主体】	株式会社まちづくり伊賀上野		
【事業内容】	誰もが気軽に来て、情報の共有ができる場所として「白鳳プラザ」を活用する。日常は「朝市」「作品展」「おもてなしの場」「地域のコミュニティの場」として活用し、まちなかの空き店舗の持ち主と事業をしたい方の相談会を開催するほか、白鳳プラザをチャレンジショップの場としても活用する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 中心市街地の歩行者等通行量 空き店舗等を活用した新規出店数		
【活性化に資する理由】	誰もが気軽に利用できる場を開設することで、多世代が暮らしやすいまちなかの形成に寄与するとともに、チャレンジショップの場としても活用することで、将来のまちなかへの新規出店が期待できるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】伊賀産品魅力向上・発信事業

【事業実施時期】	2025（令和7）年度～		
【実施主体】	伊賀市物産協会、伊賀ブランド推進協議会		
【事業内容】	伊賀の歴史や風土に培われた産品を伊賀ブランド”IGAMONO”として認定し発信するとともに、その他の物産を含めた伊賀の産品が一堂に会するマーケットを中心市街地において開催する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	伊賀の産品が一堂に会するマーケットを中心市街地において開催することにより、まちなかへの来街の促進や回遊性の向上につながるとともに、中心市街地と周辺地域との連携が図られるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】起業支援システム整備事業

【事業実施時期】	2015（平成 27）年度～		
【実施主体】	上野商工会議所		
【事業内容】	創業者のさまざまな課題を解決するため、伊賀流創業応援隊によるワンストップ窓口相談、創業スクールの開催、経営・資金調達に課する各種専門相談など、各関係機関と連携した支援を行う。 また、中心市街地で開業を希望している人には、空店舗等情報システム整備及びコンサルタント事業と連携し、物件情報の提供を行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 空き店舗等を活用した新規出店数		
【活性化に資する理由】	創業者への支援を行うことにより、まちなかへの新規出店数の増加に寄与するため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

7. 歴史・文化を活かした、商業・観光等の活性化のための事業

【事業名】商業集積再生事業

【事業実施時期】	2009（平成 21）年度～		
【実施主体】	株式会社まちづくり伊賀上野		
【事業内容】	空き家をまちなみに調和するファサードに整備するとともに、テナントミックス施設を整備し、伊賀の特色を生かしたテナントの導入により魅力と集客力のある店の創出を図る。 また、空き家を利用して「チャレンジショップ」の実施に取り組む。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町 地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町		
【目標指標】	中心市街地における居住人口の社会増減数 中心市街地の歩行者等通行量		
【活性化に資する理由】	テナントミックス施設を運営することにより、まちなかへの来街の促進や回遊性の向上につながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】プレイスブランディング／情報発信事業

【事業実施時期】	2017（平成 29）年度～		
【実施主体】	伊賀上野 DMO、忍びの里伊賀甲賀忍者協議会、伊賀市		
【事業内容】	観光公式サイトや観光パンフレットを中心として、旅行前、旅行中など旅行者の状況に適した発信方法により、伊賀市内の観光資源の魅力等を発信するとともに、地域外で開催される観光関連イベントへの出展を行う。 また、来街者が快適に過ごせるよう受入環境整備や市内事業者に向けたセミナーなど啓発事業を行い、来街者の満足度を上げる。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	観光まちづくりを進めることにより、来街者が増加し、中心市街地のにぎわいの創出及び回遊性の向上につながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】旅行商品企画開発・販売及び支援事業

【事業実施時期】	2017（平成 29）年度～		
【実施主体】	伊賀上野 DMO、忍びの里伊賀甲賀忍者協議会、伊賀市		
【事業内容】	市内事業者との連携により、観光資源の発掘や磨き上げを行い、観光商品を造成する。また、造成した商品等について、旅行商談会等に出展することにより域外販路の開拓を行うほか、市内での誘客促進イベント実施にあたっては必要な支援等を行う。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	観光まちづくりを進めることにより、来街者が増加し、中心市街地のにぎわいの創出及び回遊性の向上につながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】観光人材育成事業

【事業実施時期】	2017（平成 29）年度～		
【実施主体】	伊賀上野 DMO、忍びの里伊賀甲賀忍者協議会		
【事業内容】	市民・市内事業者の観光に関する意識醸成やおもてなし向上のため、地域内観光地の有料ガイドを育成するための取組や将来の観光まちづくりを担う人材育成を実施する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	観光まちづくりを進めることにより、来街者が増加し、中心市街地のにぎわいの創出及び回遊性の向上につながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

7. 歴史・文化を活かした、商業・観光等の活性化のための事業

【事業名】日本遺産「忍びの里 伊賀・甲賀」推進事業

【事業実施時期】	2017（平成 29）年度～		
【実施主体】	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会、伊賀市		
【事業内容】	日本遺産に認定された「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー」のストーリーを通じて、公民共創による忍者ブランドを切り口とした観光コンテンツの開発やまちづくりの観点を取り入れた地域産業の振興、国内外からの観光誘客、地域住民への普及啓発を図る。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	観光まちづくりを進めることにより、来街者が増加し、中心市街地のにぎわいの創出及び回遊性の向上につながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】史跡上野城跡及び伊賀上野城下町における歴史的資源を活かしたまちづくり推進事業

【事業実施時期】	2023（令和5）年度～		
【実施主体】	MIRAIGA プロジェクト、伊賀上野 DMO、伊賀市		
【事業内容】	地域の歴史や文化資源の保全、継承を図るため、公民の連携・協力体制により、地域に残る歴史的資源を活用した持続可能な観光地域づくりを進める。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	観光まちづくりを進めることにより、来街者が増加し、中心市街地のにぎわいの創出及び回遊性の向上につながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】市民夏のにぎわいフェスタ開催事業

【事業実施時期】	2008（平成 20）年度～		
【実施主体】	市民夏のにぎわいフェスタ実施委員会		
【事業内容】	銀座通り、本町通りを会場に楽市、楽座を開催する。 中心市街地の商業活性化を目的として、実行委員会でターゲット・コンセプトを決め、個店はそれにそった魅力的な商品開発や体験メニューを考える。商店街が舞台となるフェスタで商業者と市民の祭りであり、地元商店街としてのイベントであり中心市街地の活性化を図る。 商業の担い手となる商店街の若手後継者が意欲的に取り組み、交流を深めていく。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	イベントの開催により多くの来街者が中心市街地を訪れることで、まちなかのにぎわい創出へとつながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】伊賀上野灯りの城下町開催事業

【事業実施時期】	2009（平成 21）年度～		
【実施主体】	伊賀上野灯りの城下町実施委員会		
【事業内容】	伊賀上野灯りの城下町を開催する。 また、バルチケットを使用して城下町の飲食店で食べ飲み歩きが楽しめる、伊賀上野城下町バルを同時開催する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	イベントの開催により多くの来街者が中心市街地を訪れることで、まちなかのにぎわい創出へとつながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

7. 歴史・文化を活かした、商業・観光等の活性化のための事業

【事業名】伊賀上野・城下町のおひなさん開催事業

【事業実施時期】	2009（平成 21）年度～		
【実施主体】	伊賀上野・城下町のおひなさん実行委員会		
【事業内容】	上野本町通りを中心に、テーマに沿ったおひなさんの展示や体験、飲食等のイベントを開催する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
	【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町	
	【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数	
	【活性化に資する理由】	イベントの開催により多くの来街者が中心市街地を訪れることで、まちなかのにぎわい創出へとつながるため。	
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】伊賀上野まち百貨店開催事業

【事業実施時期】	2021（令和3）年度～		
【実施主体】	伊賀上野まち百貨店実行委員会		
【事業内容】	中心市街地全体をひとつの百貨店と捉え、各個店で普段とは違う特別メニューや催事、企画等のイベントを行う。参加者が各個店を繋げてまち歩きをすることで、城下町の歴史や魅力を再発見してもらう。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	イベントの開催により多くの来街者が中心市街地を訪れることで、まちなかのにぎわい創出へとつながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】伊賀ぶらり体験博覧会「いがぶら」開催事業

【事業実施時期】	2014（平成 26）年度～		
【実施主体】	いがぶら実行委員会		
【事業内容】	「伊賀をぶらりと体験する小さな旅」をコンセプトに、伊賀の魅力を発信する着地型観光イベントを開催する。地域の文化・歴史、自然、伝統工芸など様々な観光資源を掘り起こし、定番から斬新なものまで通年観光を実現させる新しい商品や体験プログラムを創出する。 また、率先して取り組む熱意あるプレイヤーを育成するとともに、いがぶら運営主体の体制強化を図り、持続的に販路を開拓するまでのプロセスを構築する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	イベントの開催により多くの来街者が中心市街地を訪れることで、まちなかのにぎわい創出へとつながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】魅力ある店舗創出とPR事業

【事業実施時期】	2019（令和元）年度～		
【実施主体】	伊賀市中心市街地活性化協議会、上野商工会議所		
【事業内容】	国内外に向けて、「おもてなし」の向上や魅力ある店舗づくり、インターネットやSNS を活用した情報発信を行うための事業者向けの支援を行う。各個店の集客向上や観光客の増加により、市街地の商業の活性化を図る。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量		
【活性化に資する理由】	魅力ある店舗づくりを支援することで、まちなかへの来街の促進や回遊性の向上につながるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

7. 歴史・文化を活かした、商業・観光等の活性化のための事業

【事業名】上野南部地区散策事業

【事業実施時期】	2024（令和6）年度～		
【実施主体】	上野南部地区住民自治協議会		
【事業内容】	いがぶら等で『上野南部地区の歴史と文化』をつかった南部地区内のまち歩きを募集し、観光客の皆さんに上野南部地区の良さを知っていただく。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	地域住民が企画し、運営するイベントを開催することにより、多くの来街者が中心市街地を訪れ、まちなかのにぎわい創出へとつながるとともに、将来を担う人材の育成が図られるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】地域の担い手育成事業

【事業実施時期】	2024（令和6）年度～2026（令和8）年度		
【実施主体】	上野西部地区住民自治協議会		
【事業内容】	市の「キラッと輝け！地域応援補助金事業」を活用し、勉強会やワークショップ、フィールドワーク等の活動を通じて、中心市街地の活性化を住民が自分事として捉え、地域内の居住者や人流を増やすことに協力していく環境をつくる。あわせて、地域の伝統文化を地域の宝物と再認識し、誇りをもって次世代に繋げていくために中心となる新しい担い手を育成し、長期の活動を継続できる体制をつくる。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	地域住民自らが担い手育成に取り組むことで、より地域に根差した、伊賀の歴史と文化を継承する人材が育成されるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】伊賀市テナント・店舗等木質化モデル創出事業

【事業実施時期】	2024（令和6）年度～		
【実施主体】	伊賀市		
【事業内容】	森林整備の推進による健全な森づくりの実現に資するため、多くの人が利用するテナント・店舗等において、木質化等により伊賀市産木材を積極的かつ効果的に活用する取組に対し、木質化に係る費用の一部を補助する。木質化されたモデル店舗を創出し、木の温もりを感じられる空間を情報発信することで、市内における地域材の活用を促進する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町 歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町		
【目標指標】	中心市街地の歩行者等通行量 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数		
【活性化に資する理由】	中心市街地の店舗等に伊賀市産木材を活用することにより、中心市街地と周辺地域との連携が図られるため。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			